

# 鮭 鱒 彙 報

第 六 卷 第 二 號

昭和九年四月十三日

## 北海道鮭鱒孵化事業協會

(北海道廳水産課內)

鮭鱒孵化事業統制實施準備協議會に於ける北海道廳長官の訓示……………(一)

### 資料

鮭鱒孵化事業の移管……………(三)

### 彙報

鮭漁獲高……………(八)

鱒漁獲高……………(九)

移管孵化場勤務者氏名……………(九)

北千島紅鱒人工孵化施設……………(一〇)

昭和八年度全道鮭親魚捕獲採卵成績……………(一一)

種卵分與……………(一二)

鱒類飼育成績……………(一三)

鮭鱒孵化事業補助一覽表……………(一四)

孵化事業經營者の異動……………(一七)

洞爺湖の姫鱒親魚の小形……………(一七)

鱒の移殖……………(一八)

湧別孵化場創立十周年及國營移管記念式……………(一八)

### 會報・會告

會員消息……………(二〇)

鮭發生標本配付……………(二〇)

會費領收報告……………(二〇)

寄贈圖書・會告……………(二〇)

### 目次

國後嶋の湖水



東沸湖 國後島東沸湖ヨリ羅白岳ヲ望ム (共一) (十二月)



二木城湖 國後島二木城湖 鮭 曳 網 前方羅白岳 (十二月)

(小林教司君寄贈)

新刊案内

北海道帝國大學附屬 理學博士 藤田經信序  
水産専門部教授 北海道廳技師 半田芳男著

【訂正再版】

鮭鱒人工蕃殖論

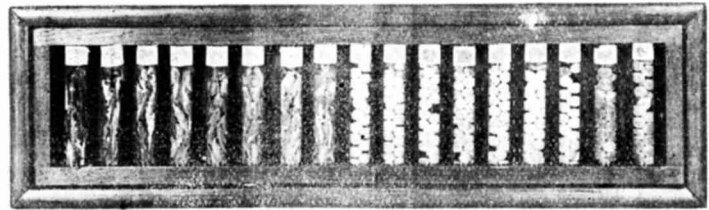
定價金四圓五拾錢

送料内地 三十四錢  
臺灣、樺太 三十四錢  
朝鮮、關東洲 四十九錢  
滿洲國、南洋

發行

札幌市北三條西五丁目  
北海道廳水産課内

北海道鮭鱒孵化事業協會  
振替小樽二一四八番



布配費實本標鮭生發

〔錢二十料送〕圓二金組一乙 〔要不料送〕圓五金組一甲  
記前し製作を本標生發鮭るた料資好の上業産・術學・育教  
もてしと品飾裝内室てしに美優裁体。す布配て以を費實  
れあ込申急至す適好

會協業事化孵鱒鮭道海北  
内課産水廳道海北

# 鮭鱒孵化事業統制實施準備協議會ニ於ケル

## 北海道廳長官ノ訓示

(二月十二日)

本日道廳主催ノモトニ鮭鱒孵化事業統制實施準備協議會ヲ開催スルニ當リマシテ、天候不良ノトコロ御出デ下サレタ事ヲ感謝致シマス。

北海道ノ開拓ニ當リマシテハ、精神的方面ニ力ヲ入レルト共ニ物質的方面即交通關係ニアリマシテハ道路、港灣ニ力ヲ入レルト全時ニ之等ヲ利用シテ富ノ増加ニ力ヲ致シ産業方面ノ發展ニ努力スベキデアリマスガ、人口少ナカリシ頃ハ、天然資源多カリシヲ以テ林産業其ノ他ハ、粗放的ニスルモ或程度ノ收益ヲ得クノデアリマス。

然ルニ文化ノ進展ニ伴ヒ、水産物ノ需要ハ日ニ増シ増加スル今日天然ノ資源ノミニ待ツコトハ出來ヌ現狀ニアル以上、道民ノ精神的訓練ト相俟ツテ、如何ニシテ此ノ道ヲ開拓シテ行クカト云フコトヲ考ヘテ頂カナケレバナラナイト全時ニ、水産關係ノ各位竝ニ産業團體ノ各位方、協力以テ現在ノ不備改良ニ心シテ、公益ノ最善ヲ期スベク考ヘテ頂カナケレバナラナイノデアリマス。

尙又、人力ヲ以テ資源ノ増加ヲ計リ、以テ生産物ハ農産

物ニアリマシテハ、農産物検査所、林産物ハ林産物検査所水産物ハ水産物検査所ニヨツテ、品質ノ向上ヲ計ルト同時ニ、之ヲ統制シ良品ヲ廉價ニ販賣スルコトハ、本道ノ重大ナル使命デアアルノミナラズ、非常時局ニ當リ又、北海道殖其他各種ノ一大轉換期ニ當リマシテ、道民ノ輿論ヲ提ゲ神ノ如キ公平ナル精神ヲ以テ、着々ト實行ノ域ニ達スル様心懸ケテキルノデアリマス。

翻ツテ水産方面ヲ見レバ、北海道ハ世界三大漁場ノ一ニシテ、之レガ漁獲物ノ生産ハ無限ノ寶庫ト稱スベキデアアルガ、近時漁獲ノ進展ニ伴ヒ、亂獲ノ弊ニ陥リ、著シク蕃殖ヲ阻害サレツ、アル現狀ニ至ツタノデアリマス。一面加工處理ニ至リマシテハ、未ダ充分發達セザル關係上比較的生産ノ多キモノヲ廉價ニ供給スル爲メ、原産地トシテノ北海道ノ收益ハ余リニ微々タルモノデアリマス。

殊ニ世界三大漁場ノ地位ヲ占ムル日本國民ハ、水産物殊ニ魚肉ヲ好ム點ヨリ致シマシテモ、國民營養上實ニ重大ナ事デアルカラ、私ハ過去數年來此ノ方面ニハ全力ヲ注イデ

來タノデアリマス。

其ノ一トイタシマシテ、鯉漁業合同ヲナサシメ、尙追々ト最善ヲ盡シテ行キタイト考ヘテ居リマスガ、第二ハ北海道ノ沿岸漁業ハ漁具、漁法ノ發達セルタメ漸次不振ニ傾キツ、アリ之レガ爲メ、一時ハ漁村ノ救済ヲ叫バレ、之ニ對スル計畫モ立テマシタガ、當時ハ政府ノ承認ヲ得ルニ至ラズ、漸ヤク其ノ半ヲ以テスルノミデ終ツタノデアリマス。此ノ見地ヨリ致シマシテ、沿岸漁業ヲ盛ニスルベク淺海増殖ニ力ヲ入レ、他面機船底引網漁業及トロール漁業ヘノ對策トシテ、北海道廳及農林省ノ監視船三隻ヲ以テ取締ヲ嚴重ニシ沿岸漁民ノ保護ニ當テ居ルノデアリマス。

然シ、北海道漁業ノ如ク只敵ノ來ルヲ待ツテ獲ルガ如キハ、採ルベキ策デハナク、進ンデ遠洋漁業ノ進展ヲ期スル見地ヨリ漁場ノ探索ヲナシ、以テ石油發動機船ノ發展ヲ獎勵スベク、約五十ヶ所以上ノ小漁港ヲ計劃シ、九年度中ニハ大体完成ノ域ニ達スルモノデ、之ヲ以テ満足ハシナイガ從來ヨリ施設ノ充實シテ來タ事ハ喜ベキコトデアリマス。更ニ生産物販路ノ擴張ト共ニ、品質ノ向上ヲ計ルベク水産物検査所ヲ設立シ、又一支廳一水産會ヲ目標トシテ本來ノ水産會ノ改善ヲ圖リツ、アリ、尙更ニ今後手ヲ加フルヲ要スルモノハ、淺海増殖竝ニ回歸性ノアル鮭鱒増殖ノ改善ヲ計ルト共ニ、北千島ノ漁場開發ト相俟ツテ之レガ統一ヲ

圖ルコトデアリマス。

北海道水産ノ重要位置ヲ占ムル鮭鱒漁業ノ消長ガ、人工孵化放流事業ノ成績ニ左右セラル、事ハ、動カス事ノ出來ナイ顯著ナル事實デアリマス。而モ此孵化事業ノ創設サレタノハ、遠ク明治十年前デアリマシテ爾來年ヲ追フテ、發達シマシタガ、其ノ形式内容共ニ備ハルニ至ツタノハ近年ノ事デアリマシテ、昭和二年第二期拓殖計畫中ニ本事業ノ組織的實施方針ガ織込マレテカラデアリマス。即チ本廳自ラ孵化事業ヲ經營スルト共ニ、民間經營事業ニ對シテモ事業ノ補助ヲナシ、又指導監督ヲ致シテカラデアリマシテ其ノ實施ノ結果ハ、所期ニ近イ好成绩ヲ收メツ、アリマスケレド、北海道拓殖事業ノ進展ニ伴フ内陸方面ノ開發ト漁業ノ發達ニ基ク漁獲力ノ増加トハ、鮭鱒蕃殖ニ對スル障害ヲ加速度的ニ加ヘツ、アル有様デアリマスカラ、本事業ハ更ニ一層之ヲ擴張シテ、孵化放流ノ數量ヲ増加スルト共ニ事業ノ基礎ヲ安固ナラシムル施設ヲ致サネバナラヌ有様デアリマス。

ハザル有様デアリマシテ、斯クテハ、到底時代ノ進運ニ伴フ施設ト云フ事ガ出來ヌノデアリマス。故ニ孵化事業ハ之ヲ統一シテ、一ノ經營主体ニ歸セシムル必要アリ、ソレニハ國費經營ヲ最モ良キ方法トスルノデアリマスガ、是非一學ニ全部ヲ國費經營ニスル事モ、豫算其他ノ事情ヨリ困難デアリマスノデ、最モ實行シ易キ方法ニヨリ孵化事業本來

ノ使命ニ適應スル經營ヲ實施シ、以テ鮭鱒漁業ノ維持増進ヲ圖ラントシ、本協議會ヲ開イタ次第デアリマスカラ、多年孵化事業ニ關シ深キ經驗ヲ有スル、各位ニ於テハヨク此趣旨ヲ諒承セラレ、慎重審議以テ斯業ノ爲メニ寄與サレン事ヲ望ム次第デアリマス。

資 料

鮭 鱒 孵 化 事 業 ノ 移 管

一 四月一日ヲ以テ實施セラル

本道鮭鱒人工孵化事業ハ昭和二年度ニ於テ第二期拓殖計畫ヲ以テ將來ノ年産額ヲシテ鮭四万五千石、鱒三万五千石以上ヲ確保セシムル目的ノ下ニ官營ト民營孵化事業ノ助成及監督ノ施行ヲ見タ。而シテ本計畫實施ノ結果ハ、既ニ近年ニ至リ豫期以上ノ好成绩ヲ收メ得タルモ内陸ノ開發進步ト漁獲力ノ増加トヲ考慮スルトキハ本事業ノ基礎ヲシテ更ニ安固ナラシムル要アルヲ痛感セラル。殊ニ營利的經營ヲ以

テシテハ効果ヲ舉ゲ難キ性質ニ鑑ミ、確固タル統制ノ下ニ最少ノ勞費ヲ以テ最大ノ効果ヲ期スルト共ニ、公正ナル經營法ニヨリ蕃殖保護ノ實ヲ舉グルコトニ努メネバナラヌノデ講究ノ結果蕃殖上重要ナル三十八民營孵化場ヲ道廳ニ移管シ、在來ノ三官營孵化場ト合シ四十一箇所ヲ拓殖費(産業費)ヲ以テ經營スルコトニナリ、去ル三月二十九日之ガ決定ヲ見タノデアル。(北海道廳公報第三百六十四號登載)

多年官民一致要望シタ國費經營ノ第一歩ヲ踏ミ出シタコトハ、慶賀ニ堪エナイ。尙今後ノ大成ヲ期シテ止マナイノデアル。以下本事業移管統制ノ内容ヲ紹介スル。

一、統制ヲ必要トスル理由

本道鮭鱒孵化事業ノ經營者ハ、昭和八年度末現在官民合セテ三十八名ノ異レル多數ノ經營者ニヨリテ事業ヲ行ツテ居ルガ、之ハ從來ハ普通のニ然モ急速ニ各水系ニ本事業ヲ起ス必要ヲ認メタルニ由ルノデアルモ、今後ハ主力ヲ、事業内容ノ改善充實ニ注ギ効果ノ増進安定ヲ期スル必要ヲ認メラレル、然モ現在ノ如ク多數ノ經營者ガ分立スルニ於テハ、縦へ人工孵化事業取締規則ニヨリ、監督ヲ嚴重ニスルモ取締能力ニ自ラ限度アルノミナラズ、各經營者間ノ連絡統制ニ遺憾ノ點アツテ効果ノ増進、冗費ノ節約ヲ期スルコト困難ナルニヨリ、之ヲ統制スルノ必要ヲ認メラレタノデアル。即チ統制ヲ必要トスル理由ヲ要言スレバ、次ノ如クデアル。

- (一) 本道内陸ノ開發進展ニ伴フ鮭鱒産卵床ノ荒廢ト漁獲力ノ増進トハ人工孵化事業ヲシテ更ニ有効ナラシメ以テ鮭鱒増殖ノ實ヲ學グル必要アリ。
- (二) 孵化放流ニヨリ回歸鮭鱒ハ獨リ放流河川附近ノミニ止マラス、他地方ニ於テ漁獲セラレ、モノモアルニ

關係上利用價值大ニシテ且他種魚族ヲ混獲シ得ベク、又鮭ニ比シ其漁業ノ規模小ク經營費モ亦少キ利ガアル。故ニ右ニヨリ漁獲高約十二万石ヲ維持シ得レバ足リル。但シ近時流網、延繩等ニヨリ沖合漁業ノ發達ニ伴ヒ、沿岸漁獲ニ影響スルモノアルニヨリ之ヲ三万石ト見テ、少クトモ合計十五万石漁獲ニ達セシムルヲ要スル。右漁獲ヲ期待スルニ要スル採卵數及孵化放流數ハ昭和二年度以降ノ實績ニ依リ次表ニ示ス通り算出セラレル。

種類	回 歸 漁 獲 高	所要採卵數	所要孵化放流數
鮭	六万石(三六〇万尾)	三億粒	二億五千五百万尾
鱒	十五万石(一、八〇〇万尾)	一億二千万粒	一億〇八百万尾

備考 回歸數ハ採卵數ニ對シ鮭ハ一、二%、鱒ハ一五、〇%トス

所要放流數ハ採卵數ニ對シ鮭ハ八五%鱒ハ九〇%トス  
右計畫放流數ヲ現在ノ放流數ニ比スレバ鮭ニ在リテハ、一千五百万尾、鱒ニ在リテハ二千八百万尾ノ増加ニ過ギヌ。而シテ統制計畫ノ孵化放流能力ハ鮭ハ三億〇三百万粒鱒一億一千八百万粒アルニヨリ、事業實施上支障ナイ。但シ現在設備ノ改善整備ヲ爲ス必要アル(鱒放流ハ鮭設備ヲ併用スルコトヲ得)

- (三) ヨリ、全道ニ亙リ利益ヲ均霑セシムル公益的性質ヲ有スル。
- (四) 孵化事業ノ効果ヲ増進確保スルニハ、多數孵化場ノ有機的結合ニヨリ、イ) 收入不足ニ依ル經營費損失ノ危険ヲ分配シ、ロ) 經營費ヲ節約シ冗費ヲ省キハ種卵ノ補充移殖ヲ圓滑ニシ、地方漁獲ノ公平ヲ期シ、ニ) 各種障害ヘノ對抗力ヲ強固ナラシムルヲ要スル。

二、實施方法

- (一) 増殖ノ目標  
年産額鮭六万石以上、鱒十五万石以上ヲ確實ニ期待スル目標ノ下ニ年採卵、孵化放流數ハ鮭三億粒ヨリ二億五千五百万尾以上、鱒一億二千万粒ヨリ一億〇八百万尾以上ヲ必要トスル。
- (二) 統制ニ於ケル鮭建網及曳網ノ着業數ハ毎年約六百統アツテ、一統平均漁獲高僅カ七十石ニ過ギナイタメ、經營安定セザルニヨリ之ヲ少クトモ、平均百石漁獲即チ合計六万石ニ達セシムルヲ要スル。又鮭建網及曳網ノ着業數ハ毎年約九百統アツテ、平均百三十石ヲ示セドモ鱒ハ其漁期ノ

(二) 事業組織

經營ノ本部ニ於テ事業ノ計畫、立案、實施、指導監督ヲ爲シ以テ全事業ヲ統轄スル。而シテ孵化放流ノ現業ハ鮭鱒蕃殖上ノ重要程度水系、地勢及交通關係ヲ考慮シ全道ヲ五區ニ分チ、各區ノ中ノ最重要孵化場ヲ、其地方ノ中心孵化場トシ、其他ハ之ニ附屬セシメ五ニ密接ナル連系ヲ保ツ所ノ細胞組織ヲ作り、以テ有機的連絡ノ實ヲ學ゲシムル。地方ノ中心孵化場ノ中更ニ特ニ重要ナルモノハ其内容ヲ充實セシメテ他孵化場ノ技術的指導ノ中樞タラシメ、緊要適切ナル試験研究ヲ爲シ事業ノ効果ヲ學グルニ努メ、尙附屬孵化場ノ事業施行上ノ第一監督ニ當ラシムルト共ニ、將來ハ一般淡水養殖ニ關スル試験研究ヲモ行フ豫定デアアル以上ヲ表示スレバ次ノ如クデアル。

支 廳	地方孵化場	附屬孵化場	鮭 鱒 孵化設備	鮭 鱒 實施計畫	摘 要
石 志	千 歲	朱 太	五、〇〇〇	五、〇〇〇	
後 天	利 尻	別 別	三、〇〇〇	三、〇〇〇	
志 利	天 鹽	一 四	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
		一 四	一、〇〇〇	一、〇〇〇	



○鮭漁穫高

昭和八年の本道鮭漁獲高は二万七千四百四十五石であつて凶漁に終つたが、前年に比較すれば三千九百〇一石の増である。第一期第二期は著しく薄漁であつたため、當年勃興した北千島流網漁業の影響なりとして漁業者間に一大衝動を興へたが、之も有耶無耶に終り第三期に於て相當の來游あつた。然し時や正に荒天期になつたので、漁獲高は案外少かつた。ために各孵化場の河川に於ける親魚捕獲数は別項記する如く豊漁であつた。

支廳別	第一期	第二期	第三期	合計
石狩	八八八石	三八二石	九七二石	二、二五二石
後志	五八	一四九	一二九	三三六
檜山	二	八三	五三	一三八
渡島	一〇	一四一	七二八	八七九
膽振	三	三九	九三	一三五
日高	六	七八二	一、七二七	二、五一五
十勝	七二三	六七五	二九八	一、六九六

支廳別	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	合計
釧路國	二〇四	八八七	二、三二六	六三〇	一九九	一、〇三三	一、〇三三
根室	一、〇三六	五、一〇五	三、九〇一	一〇、〇四二	二、二八五	一、四六八	一、〇三三
網走	六四二	一、一二六	五一七	二、二八五	一、四六八	一	一、〇三三
宗谷	四〇六	三六四	六九八	一	一	一	一、〇三三
留萌	一〇〇	五八〇	八〇	七六〇	二七、四一五	二、三、五一四	一、〇三三
室蘭市	一〇〇	五八〇	八〇	七六〇	二七、四一五	二、三、五一四	一、〇三三
釧路市	四、九七五	一一、三八七	一〇、〇五三	二七、四一五	二、三、五一四	一、〇三三	一、〇三三
合計	四、九七五	一一、三八七	一〇、〇五三	二七、四一五	二、三、五一四	一、〇三三	一、〇三三

○鱒漁穫高

昭和八年は本道産樺太鱒の豊漁年に當るので大に期待されたが、見事に裏切られ僅か五万二千六百四十七石の漁獲高を示したに過ぎない。爲に樺太鱒漁業の本場たる樺提島は大なる打撃を受けたことは勿論である。之は魚群が薄かつたことに依るが、後期は國後島、北見國方面に比較的豊漁を見せたが、之は風の關係もあつた様だ。俗稱櫻鱒は後志、檜山、渡島方面で例年より多く獲れ、根室の各河川には樺太鱒が例年より多く遡上したことは一寸珍らしい現象であつた。

支廳別	漁穫	高	支廳別	漁穫	高
石狩	一六八石	宗谷	四三石		
後志	四八五	留萌	九八		
檜山	二九三	室蘭市	一三		
渡島	八八七	釧路市	三八六		
膽振	四七五	合計	五二、六四七		
日高	三、五一七	昭和七年	五〇、七八四		
十勝	一、三五九	六年	一二三、五九一		
釧路國	七、六一一	五年	四七、二二二		
根室	三四、二六八	四年	二五四、七八八		
網走	三、〇四四				

○移管孵化場勤務者氏名

鮭鱒孵化事業移管に伴ひ在來の民營孵化場員中左の通り四月一日付を以て採用せられた。尙近く更に新規採用者が追加發表さるゝ様に仄聞する。

千歳	附屬	氏名	職名
尻別	附屬	高木 爲吉	備人
朱太	附屬	野口 正樹	助手
利別	附屬	白神 忠一	備人
遊樂部	附屬	池田 利三郎	助手
敷生	附屬	渡邊 定吉	助手
勇拂	附屬	森 誠一	備人
新冠	附屬	毛利 八百藏	助手
染退	附屬	石田 竹彦	助手
谷口	附屬	藤原 隆一	備人
前田	附屬	谷口 達三	助手
池田	附屬	池田 信太郎	備人
澤田	附屬	池田 春造	助手
元浦	附屬	土屋 幸吉	備人
幌別	附屬	天 鹽	助手

虹 別																		
音根別	頓別	徳志別	湧別	常呂	網走	斜里	目梨	薫別	伊茶仁	當幌	風連	鋼路	十勝					
鶴田	職場	青山	吉野	乾文	森五	佐藤	飯島	内藤	齋藤	土井	吉澤	淺沼	佐藤	内海	高橋	鴨川	鴨川	並木
廣	太郎	喜藏	知道	芳	一	三太郎	尙輔	知孝	秀雄	一二三	幸一郎	美義	勇吉	登	恒藏	豊	肇	延郎
助手	助手	助手	助手	助手	助手	助手	儲人	助手	儲人	儲人	儲人	助手	儲人	助手	儲人	儲人	助手	助手

留 別																			
羅白	年崩	老門	比兵糸	當路	別飛	有崩	紗那	鳥田	伊藤	吉野	高橋	水戸	江川	吉田	白井	中村	辻	新妻	小杉
那	那	那	那	那	那	那	那	那	那	那	那	那	那	那	那	那	那	那	那
八木澤	鳥田	伊藤	吉野	高橋	水戸	江川	吉田	白井	中村	辻	新妻	小杉	那	那	那	那	那	那	那
喜家	定治	一郎	之介	太郎	勝次	今太郎	武一	義雄	岩太郎	民治	六郎	孝三郎	那	那	那	那	那	那	那
助手	儲人	儲人	助手	儲人	助手	儲人	助手	儲人	儲人	儲人	助手	助手	助手	助手	助手	助手	助手	助手	助手

備考 附屬孵化場ノ所屬ハ前記資料欄ノモノト  
異ルハ四月一日付ヲ以テ暫定的ニ從來ノ  
三官管孵化場ニ附屬セシメタルニ依ルモ  
ノニシテ近ク改正セラル、由ナリ。

### ○北千島紅鱒人工孵化施設

最近北千島の水産は異常の注意を惹く様になつたことは

今更贅言を要しない。流網漁業の勃興に伴ふ鱒詰業の計畫聞いた丈けも素晴らしい景氣であるが、此資源を維持する事に就ては閑却すべからざるものである。北海道廳ではこの資源維持の施設として、少くとも北千島で漁獲せらるゝ紅鱒は、將來自給自足し得る様に仕度いとの方針で次の計畫を有して居る。

- (一) 増殖の目標  
年漁獲高九十万尾以上を維持する事、將來は之を二百七十万尾に増殖する事。
- (二) 孵化放流  
右の目的を達する爲に年々一千八百万尾以上を孵化放流する事。將來は五千四百万尾放流を爲す。即ち差當り左の三川に於て人工孵化放流を爲す。  
荒川 一千二百万粒  
別飛川 五百万粒  
末別飛川 三百万粒
- (三) 所要費用

- (イ) 孵化場設置費 四萬圓
- (ロ) 一ケ年の事業費 一万六千三百八十六圓

本事業は無論北海道廳に於て行ふ豫定と思はるゝが、本年度は新設北千島水産會をして荒川に於て五百万粒程度の孵化放流を不取敢施行せしめ、旁ら必要なる事項を試験調査し、やがて前掲計畫の事業を本格的に行ふものと見られる。因に本年度北千島水産會の本事業に要する費用は五千圓である。

### ○昭和八年度全道鮭親魚捕獲採卵成績

本年度鮭親魚捕獲採卵は去る二月二十三日虹別孵化場の終了を殿として全部を終へた。捕獲總數三五二、四〇〇尾採卵總數二三五、〇三四、四五〇粒であつて、最近五ケ年の平均捕獲數二七七、九五五尾、採卵數二四九、六九五、二五五粒に比して遙に之を超過して居る。殊に本年度の鮭漁獲高は別項記する如く、平年以下の凶漁であつたが、河川週上親魚數は意外に多かつたことは興味あることである。左に孵化場別成績を示す。

千歳	虹別	孵化場	捕獲	採卵
一五、四四一	二四、二六〇	二〇、五五〇、〇〇〇	二四、一七五、〇〇〇	二四、一七五、〇〇〇



(一) 紅鱒卵分與飼育成績調 (昭和九年二月末日現在)

年度	分與數	放流數	面積	水深	水溫	現存數	體長	餌料	販賣先	數量	單價	住所氏名
昭和二年	50,000	15,000	15,000坪	四尺	一五度							札幌市 鹽崎勝郎
三	30,000	15,000	40,000坪	六尺	八	5,000	一、五尺	天然餌料				浦河町 日高水産會
四	10,000	4,500	35,000坪	三	六	3,000	一、四尺	死イサダ卵	七年度採卵	70,000粒	0.0000粒	遊樂部川鮭蕃殖組合
五	50,000	10,000		二六	六	300	一、二五尺	他	全部阿寒湖ニ放流			阿寒湖漁業組合
六	10,000	7,000	然別湖ニ放流	四	六	100	一、〇尺	全	上			十勝國 鹿追村長
七	30,000	25,000		二五								輕川 鹿追村長
八	10,000	5,000		二五								札幌市 近藤安彦
九	10,000	5,000		二五								札幌市 吉野武者二
十	10,000	5,000		二五								十勝國 松田芳治
十一	10,000	5,000		二五								札幌市 水事務所
十二	10,000	5,000		二五								安平市 布廣秀太郎
十三	10,000	5,000		二五								札幌市 吉野武者二
十四	10,000	5,000		二五								札幌市 吉野武者二
十五	10,000	5,000		二五								十勝國 松田芳治
計	36,000	29,500				4,350						大津漁業組合

(二) 鱒卵分與飼育成績調 (昭和九年二月末日現在)

年度	分與數	放流數	面積	水深	水溫	現存數	體長	餌料	販賣先	數量	單價	住所氏名
昭和二年	10,000	8,000	15,000坪	四尺	一五度							札幌市 鹽崎勝郎
三	50,000	20,000	30	三、五	三	1,000	六寸					鹽崎村役場
四	30,000		養魚池不完全ノタメ全部流失ス									輕川村 中川喜知三
五	400,000		全部河川ニ放流ス									三石漁業組合
六	30,000	14,000	一五〇	二、〇	二		四、五寸	豆イサダ	上層雲川	八、〇〇〇	一、一錢	上川 富塚慶吉
七	30,000	22,000	100	二、〇	二		六寸	雜魚	函館	二、〇〇〇	五錢	登別 小西實
八	10,000	9,500	100	二、〇	二	100	七寸	其イサダ	〃	六、〇〇〇	四錢	函館市 田一夫
九	10,000	全部不明										札幌市 林長
十	100,000	95,000	六	二、〇	二	5,000	五、八寸	雜魚	登札別幌	七、八錢	三錢	登別 小笠原常吉
十一	100,000	95,000	六	二、〇	二	5,000	五、八寸	雜魚	登札別幌	七、八錢	三錢	帶廣 江川定吉
十二	20,000	16,000	三〇〇	三、〇	二	3,000	三寸	細イサダ	〃			上川 富塚慶吉
計	10,000	1,000	貯水池ニ放流									旭川市 堀内弟助
計	10,000	9,000	五〇	二、五	〇	8,000	〇、二五尺	其イサダ				上川 上川養魚組合
計	5,000	4,500	五〇	二、五	〇	4,000	〇、三尺	其イサダ				明石 幸輔



大 鱒	三・五	三・〇	三・五	三・七	三・三
大 鱒	二・七	一・六	三・三	三・三	三・三
大 鱒	二・七	一・六	三・三	三・三	三・三
大 鱒	二・七	一・六	三・三	三・三	三・三
大 鱒	二・七	一・六	三・三	三・三	三・三
大 鱒	二・七	一・六	三・三	三・三	三・三
大 鱒	二・七	一・六	三・三	三・三	三・三
大 鱒	二・七	一・六	三・三	三・三	三・三
大 鱒	二・七	一・六	三・三	三・三	三・三
大 鱒	二・七	一・六	三・三	三・三	三・三

### 緋鮒の移殖

路國春採沼に産する緋鮒を北海道廳構内の池に移殖したのは八年十月八日で、尾數二十八尾で最大九寸五分一四七匁、最小二寸七分二匁、平均六寸二分三七匁のものである。やがて札幌に該魚の蕃殖を見ることがであらう。

### 湧別鮒養殖場創立十周年及國營移管記念式

紋別鮒養殖水産組合經營の湧別鮒養殖場創立十周年並今回國營移管になりたることを記念するため、去る三月十八日學式且功勞者の表彰を爲したり。  
當日午後二時半旗亭後藤に於て開催し、來會者五十名、大西組長の式辭、事業報告、來賓祝辭、祝電披露あり次に役員吉村謹爾外六名山本技術員外四名の表彰に移り最後に表彰者總代の答辭を以て終了し、記念撮影の後祝宴を催し

留 山 前	天 鹽	上名寄、豊富
檜 山 前	利 生	玉川
膽 振 敷	十 勝	白老第一
十 勝 室	伊 茶	帶廣、清水、芽室、浦幌
根 室	羅 茶	伊茶仁
網 走	年 別	春茹古丹
網 走	年 別	薫別
石 狩	千 歳	美幌
石 狩	千 歳	紋別
宗 谷	德 志	花畔、篠路、生振、當別、月形、瀧川第一、深川、砂川
宗 谷	德 志	枝幸

### 會員領收報告

△八年度分  
池田利三郎 堺千代吉 鴨志田彦七

### 寄贈圖書

神奈川縣水産試験場事業報告 水産公論 釣人  
東京水産新聞 日本水政新聞 水産新報

盛況裡に散會せり。

### 會 報

#### 會員消息

井筒宇三郎 網走外二郡鮒養殖水産組合長に當選就任せらる。  
蒲原八郎 虹別鮒養殖場に奉職せらる(釧路國虹別局区内)  
仲吉朝賢 佐賀縣水産試験場有明灣出張所に奉職せらる。

#### 鮒發生標本配付

本年度本會事業として、鮒發生標本を配付したるは、左記三十校である。以て稚魚愛護觀念の涵養に幾分貢献し度いと思ふものである。

市支廳管内	關係鮒養殖場	配 付 小 學 校
札 幌	千 歳	幌西、中央創成、朝日、上川、愛別、北野、東旭川
旭 川	川 〃	
上 川	川 〃	

### 會 告

農林省水産局長より北海道廳長官宛左記事項に關し依頼あり北海道廳公報を以て關係各支廳長、市長、水産試験場長同支場長各鮒養殖場長及各水産會々長へ通知せるを以て會員各位に於ても注意せられ度し。

記

一、六月上旬頃より「ペーリング」海公海に於て七月上旬頃より「オホーック」海公海に於て農林省漁業取締船より鮒を標識放流する。  
一、右標識魚を捕獲せる場合には其標識と次の事項を書いて添へ水産局へ送附すること。

- (一) 標識番號
- (二) 漁獲年月日
- (三) 漁獲地点
- (四) 鮒の種類
- (五) 体長(吻端—尾柄ノ終端迄)
- (六) 体重
- (七) 標識票に依る魚体の損傷程度

◇ 祝ヲ管移營國ノ場化孵 ◇

鮭鱒孵化用器具ノ

御用命ハ是非!!弊所へ

弊所特製『漆塗孵化盆』ノ御試用ヲ乞フ

- 一、鮭、鱒、鮎、鯉、孵化盆 及 同枠
- 一、同孵化槽、受卵器、各種染料、漆
- 一、アスファルト(流動)、塗料、テレピン油
- 一、龜 甲 紗(卵掬用)、採 卵 海 綿
- 一、標 本 瓶、廣 口 瓶、管 瓶
- 一、卵子消毒藥各種、化學藥品、醫療藥品
- 一、孵化場用印刷物一切、父子堂製劑

鮭鱒孵化器製造元

山本勝見工作所

札幌市北三條東六丁目(電停前)  
電話二五二七番 振替小櫃三九七八番

昭和九年四月二十五日印刷  
昭和九年四月三十日發行

札幌市北二條西七丁目一番地

編輯兼 發行人 半 田 芳 男

札幌市外苗穂五十番地

印刷人 田 中 幸 司

電話一九三八番

札幌市北三條西六丁目北海道廳水産課内

發行所 北海道鮭鱒孵化事業協會

電話二六三〇(內線六七番)  
振替口座小櫃 二二四八番